

## 平成 22 年度事業状況報告書

定款第 5 条第 1 項の (1) から (5) に掲げる平成 22 年度の事業計画実施概要の報告は下記の通りです。

### 記

#### 1 号事業報告：

##### (1) 全国大会の開催

平成 22 年 9 月 7 日から 9 日まで宮城大学大和キャンパス（宮城県黒川郡大和町）において、「明日の学習者，明日の教師—大学英語教育における学習者と教師の自律的成長—」をテーマに第 49 回全国大会を開催した。参加者数約 600 人。基調講演 4 件、国内招待講演 1 件、海外提携学会代表等による招待講演 5 件、全体シンポジウム 1 件、シンポジウム 2 件、ポスターセッション 7 件、ワークショップ 2 件、賛助会員発表 9 件、研究発表 37 件、実践報告 25 件、事例研究 8 件等、盛会な大会であった。

会員には、11 月に刊行した『JACET 通信大会特集号』にて全体報告と、基調講演、全体シンポジウム等に関する報告を行い、全国大会で披露された研究成果や知見を広く知らしめ、研究者の研究活動推進に資するものとした。

##### (2) サマーセミナーの開催

平成 22 年 8 月 22 日から 25 日に、国立大学法人等協働利用施設草津セミナーハウスにおいて、「教員養成」をテーマとして第 38 回サマーセミナーを開催した。参加者 42 人であった。Dr. David Newby および国内からも教員養成に関わる分野の最先端の研究者を講師に迎え、講演を行っていただいた。また、公募された参加者による発表も行なわれ、有意義な研鑽の場となった。講演と発表内容についての成果は *Summer Seminar Proceedings* として平成 23 年 2 月に刊行した。

##### (3) 春季セミナーの開催

平成 23 年 3 月 26 日に、青山学院大学で「小中高大連携の英語教育：その可能性を探る—共通の枠組みの構築—」をテーマとして、英語教育の実践研究セミナーを開催する予定であったが、平成 23 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災の影響により実施を中止することとした。

##### (4) 支部大会の開催

以下のように各地で支部大会を開催した。支部大会で披露された研究成果や知見が各研究者の研究活動に大きな道標となった。また、研究大会については、各支部ニュー

ズレターで報告された。

- ・ 北海道支部大会 平成 22 年 7 月 10 日
- ・ 関東支部大会 平成 22 年 6 月 27 日
- ・ 中部支部大会 平成 22 年 6 月 6 日
- ・ 関西支部春季大会 平成 22 年 6 月 19 日
- ・ 関西支部秋季大会 平成 22 年 11 月 27 日
- ・ 中国・四国支部大会 平成 22 年 6 月 5 日
- ・ 九州・沖縄支部研究大会 平成 22 年 7 月 3 日

#### (5) 支部講演会の開催

以下のように、各支部において講演会が開催された。講演会で披露された研究成果や知見が各研究者の研究活動の大きな道標となった。

- ・ 東北支部 11 月例会 平成 22 年 11 月 27 日
- ・ 中部支部講演会 平成 22 年 10 月 16 日  
(南山短期大学との共催)
- ・ 関西支部 1~3 回講演会 平成 22 年 7 月 24 日, 平成 22 年 10 月 2 日,  
平成 23 年 3 月 12 日
- ・ 九州・沖縄支部秋季学術講演会 平成 22 年 11 月 13 日

#### (6) 支部研究会の開催

以下のように各支部において研究会が開催され、これらの研究会で披露された研究成果や知見が各研究者の研究活動の大きな道標となった。

- ・ 北海道支部研究会：第 1 回：平成 22 年 5 月 16 日，第 2 回：平成 22 年 11 月 7 日，  
第 3 回：平成 22 年 12 月 23 日，第 4 回：平成 23 年 3 月 5 日
- ・ 関東支部月例研究会：第 1 回：平成 22 年 5 月 15 日，第 2 回：平成 22 年 7 月 17  
日，第 3 回：平成 22 年 8 月 20 日，第 4 回：平成 22 年 10 月 16 日，第 5 回：平  
成 22 年 11 月 20 日
- ・ 中部支部 12 月定例研究会，2 月定例研究会：平成 22 年 12 月 18 日，平成 23 年 2  
月 26 日
- ・ 中国・四国支部研究会：第 1 ブロック研究会：平成 22 年 9 月 25 日，第 2 ブロッ  
ク研究会：平成 22 年 10 月 16 日，第 3 ブロック研究会：平成 22 年 11 月 27 日

## 2 号事業報告：

### (1) 『紀要』の刊行

- ① 平成 22 年 10 月 31 日に『JACET Journal』51 号を刊行。掲載論文 5 件。
- ② 平成 23 年 3 月 31 日に『JACET Journal』52 号を刊行。掲載論文 4 件，リサーチ

ノート 1 件。

会員及び英語教育関係者等へ送付した。海外提携学会等へも送付し、日本の英語教育研究の最新情報を発信した。

## (2) 『JACET 通信』の刊行

- ① 平成 22 年 7 月 1 日に『JACET 通信』174 号（日本語、印刷版および Web 版）を刊行。
- ② 平成 22 年 10 月 1 日に『JACET 通信』175 号（英語、Web 版）を刊行。
- ③ 平成 22 年 11 月 1 日に『JACET 通信』176 号（大会特集号）（日本語、印刷版および Web 版）を刊行。
- ④ 平成 22 年 12 月 1 日に『JACET 通信』177 号（日本語、印刷版および Web 版）を刊行。
- ⑤ 平成 23 年 3 月 1 日に『JACET 通信』178 号（英語、Web 版）を刊行。

以上、合計 5 回の通信の刊行を行い、大学英語教育関連の情報発信に寄与した。

## (3) 「英語教育学大系」全 13 巻（予定）の刊行および準備

平成 22 年 2 月 1 日に第 1 巻『大学英語教育学 その方向性と諸分野』刊行。大学英語教育学の研究の現状や問題点について広く考察し、将来の研究の方向性を展望し、併せて、全 13 巻の概要を示した。平成 22 年度は以下の 7 巻を刊行した。既刊のどの巻も大修館書店『英語教育』書評欄で英語教育の専門家から高い評価を受けた。大学英語教育学の確立と日本の大学英語教育の改善に資することができた。

- ① 第 11 巻 『英語授業デザインー学習空間づくりの教授法と実践』
- ② 第 6 巻 『成長する英語学習者ー学習者要因と自律学習』
- ③ 第 3 巻 『英語教育と文化ー異文化コミュニケーション能力の養成』
- ④ 第 8 巻 『英語研究と英語教育ーことばの研究を教育に活かす』
- ⑤ 第 4 巻 『21 世紀の ESPー新しい ESP 理論の構築と実践』
- ⑥ 第 9 巻 『リスニングとスピーキングの理論と実践ー効果的な授業を目指して』
- ⑦ 第 7 巻 『英語教師の成長ー求められる専門性』

## (4) 支部紀要の発行

各支部で紀要を発行し、会員及び英語教育関係者等へ送付した。支部紀要は、支部会員の学術研究を奨励し、論文発表の機会を与えた。また、日本の英語教育研究の最新情報を発信した。

- 『北海道支部紀要』8 号 平成 23 年 3 月 15 日
- 『関東支部学会誌』7 号 平成 23 年 3 月 31 日
- 『中部支部紀要』8 号 平成 22 年 12 月 22 日

- 『関西支部紀要』 13号 平成 23 年 3 月 31 日
- 『中国・四国支部研究紀要』 8号 平成 23 年 2 月 28 日
- 『The JACET Kyushu-Okinawa Chapter Annual Review of English Learning and Teaching』 15号 平成 22 年 11 月 30 日

#### (5) 支部ニューズレターの発行

各支部でニューズレターを発行し、支部活動動向や、支部会員への英語教育に関する情報提供と情報交換を行った。

- 北海道ニューズレター24号 平成 23 年 3 月 31 日
- 東北支部通信 37号 平成 23 年 3 月
- JACET Chubu Newsletter No.24 平成 22 年 5 月 10 日
- JACET Chubu Newsletter No.25 平成 22 年 12 月 20 日
- 関西支部ニューズレター52号 平成 22 年 4 月 1 日
- 関西支部ニューズレター53号 平成 22 年 5 月 29 日
- 関西支部ニューズレター54号 平成 22 年 7 月 26 日
- 関西支部ニューズレター55号 平成 22 年 10 月 24 日
- 中国・四国支部ニューズレター 4号 平成 22 年 4 月 30 日
- 中国・四国支部ニューズレター 5号 平成 23 年 1 月 1 日
- 中国・四国支部ニューズレター 6号 平成 23 年 1 月 31 日
- 九州・沖縄支部ニューズレター 26号 平成 22 年 4 月 15 日

### 3号事業報告：

#### (1) 大学英語教育学会賞の表彰（学術賞・新人賞・実践賞）

平成 22 年 9 月 7 日の全国大会時に、大学英語教育学会賞の学術賞が村田久美子氏 編著書『コミュニケーション能力育成再考—ヘンリー・ウィドウソンと日本の応用言語学・言語教育』（ひつじ書房 2008）に授与された。新人賞と実践賞は該当者がいなかった。

#### (2) 関係学術団体への派遣

##### ① RELC (Regional Language Centre)

平成 22 年 4 月 19 日から 21 日にシンガポールで開催された第 45 回 RELC 国際セミナーに本学会より学会代表者を 1 名派遣し、研究発表を行なった。大会参加の成果と報告は学会ホームページに掲載。

##### ② KATE (The Korea Association of Teachers of English)

平成 22 年 7 月 2 日から 3 日に韓国ソウル市で開催された KATE 2010 International Conference に本学会より学会代表者を 1 名派遣して、研究発表を行ない、学術交流及び情報交換を行なった。その成果と報告は学会ホームページに掲載。

##### ③ IATEFL (International Association of Teachers of English as a Foreign Language)

平成 22 年 4 月 7 日から 4 月 11 日に英国カーディフで開催された 44th ANNUAL INTERNATIONAL IATEFL CONFERENCE AND EXHIBITION に本学会より学会代表者を 1 名派遣して学術交流および情報交換を行なった。その成果と報告は学会ホームページに掲載。

④ ALAK (The Applied Linguistics Association of Korea)

平成 22 年 12 月 14 日に韓国ソウルにおいて開催された ALAK 2010 International conference において本学会より学会代表者を 1 名派遣し、研究発表を行い、学術交流を実施した。その成果と報告は学会ホームページに掲載。

⑤ ETA-ROC

平成 22 年 11 月 12 日から 14 日に台湾の台北市(Chien Tan Overseas Youth Activity Center)で開催された The 19th International Symposium and Book Fair on English Teaching に本学会代表者 1 名を派遣して、研究発表を行い、学術交流を実施した。その成果と報告は学会ホームページに掲載。

⑥ MELTA (Malaysian English Language Teaching Association)

平成 22 年 6 月 17 日から 18 日にマレーシアで開催された第 19 回 MELTA 国際大会に本学会の代表者 1 名を派遣し、研究発表を行い、学術交流を実施した。その成果と報告は学会ホームページに掲載。

⑦ AILA (国際応用言語学会)

平成 22 年 7 月 8 日から 9 日にオーストラリアのブリスベンで開催された business meeting に本学会より代表者 1 名を派遣した (JACET の代表者として会議出席)。報告書は理事会に提出。

⑧ PKETA (Pan-Korea English Teachers Association)

平成 22 年 10 月 9 日に韓国釜山国立大学校で開催された PKETA 大会に本学会代表者 2 名を派遣し、研究発表を行い、教育・学術交流を深めた。成果と報告はニューズレターに掲載。

⑨ Thai TESOL(Thailand TESOL)

平成 23 年 1 月 21 日から 22 日にかけて、タイで開催された第 31 回 Thai TESOL に本学会の会長を派遣し、基調講演を行った。

#### 4 号事業報告：

(1) 全国レベルの調査研究

大学英語教育に関する実態調査

従来の「学部」という範疇ばかりでなく、英語を実際に使用して国際社会で通用する人材育成のために高等教育機関がどのように取り組んでいるかを調査報告することを目的とした実態調査を行うために、会員を対象にプロフィール調査を行った。

(2) ICT 調査研究

- 平成 22 年 9 月 8 日に JACET-ICT 調査研究特別委員会特別企画としてシンポジウムを開催した。全国で行われている ICT を活用した語学授業実践の最前線について発表し、情報を交換した。
- 九州・沖縄支部講演会（平成 22 年 3 月）、中部支部講演会（平成 22 年 6 月）、関東支部においてシンポジウム（平成 22 年 9 月）を開催した。
- 活動報告書を出版予定

### (3) 第 2 次授業学研究

全国代表者会議を平成 22 年 5 月 8 日、平成 22 年 6 月 26 日、平成 22 年 9 月 6 日の 3 回行い、実践事例の募集要項を作成した。また、各支部授業学研究会にて、実践例を中心に授業のあり方を研究した。授業学研究会の全国的基盤を確立できた。

### (4) 専門分野別の研究会活動

本学会には現在 41 研究会があり、各研究会はそれぞれの分野の調査研究を基盤として、会員の資質向上、書籍出版、教材開発、紀要等での論文発表などの活動を行なっている。そして、研究会担当委員会はそれらの各研究会の活動を支援している。その結果、本活動が会員・非会員相互の専門知識と技術の向上及び大学英語教育の発展にも寄与している。

## 5 号事業報告：

### (1) JACET 創立 50 周年記念寄付事業

JACET 創立 50 周年を記念して、第 50 回記念国際大会を福岡市で開催、50 周年記念誌の発行、50 周年記念刊行事業(「英語教育学大系」全 13 巻)、の刊行を行い、これらの事業を通して会員および非会員へ研究成果を伝達または配布し英語教育界全体の発展を目指した。この為の資金の一部として、JACET 会員をはじめ、関係者に寄付金を募り、目標額 400 万円を達成した。

### (2) 諸会議の開催

- ① 平成 22 年 6 月 20 日 平成 22 年度第 1 回定例理事会の開催
- ② 平成 22 年 6 月 20 日 平成 22 年度第 1 回定例社員総会の開催
- ③ 平成 22 年 9 月 3 日 平成 22 年度第 1 回臨時理事会

なお、平成 23 年 3 月 21 日開催予定であった平成 23 年度第 2 回臨時理事会、ならびに第 2 回定例社員総会は、東日本大震災のため中止された。

- ④ 定例運営会議の開催。毎月 1 回開催。年間合計 12 回開催。

以上